



ワラ人形「戌」

河北町 石川 清治氏 作

基礎・基本

館長 森谷 信和

祇園祭で巡行する山鉾の前掛や胴掛の絵がらほそれまでの狩野派から円山応挙の画風へと変わって今日に伝えられ、京文化に大きな影響を与えています。国宝「雪松図屏風」は応挙の代表作として知られています。応挙の絵画観は実物写生に対する絶対的信頼でした。対象が人物や動・植物であれ、岩や水であれ、天が作りだした造化物はかならず美しく、ありのまま描けば絵になるという精神は自然に対する畏敬の念といえるでしょう。また、応挙は絵画に説明図としての実用性を認めています。即物写生から出発してやがて本質把握に至るという考えに立っています。事象を正確に捉え、写しとることは科学する行為以外のなものでもありません。洋の東西を問わず、名をなした画家は徹底した素描をやって独特な自己の世界を築いています。応挙の偉大さは基礎・基本に徹した画法に内包している情感を加え、血や肉とし、芸術性の高いものに仕上げているところです。

ところで、「新しい学力観」が今日的課題となつて、思考力とか判断力等に焦点があてられています。しかし、時代がいかに変革しようと基礎・基本に徹した学力を体得させることが第一義であるでしょう。思考力や判断力も確かな知識や理解や技能があつて培われるからです。その点、「新しい学力観」は基礎・基本となる学力とは少しも矛盾はしないと思います。

今年度から新博物館について検討がなされていますが、事象をありのまま伝えるという展示の手法は変わらないでしょう。博物館活動の基礎・基本をいつもわきまえ、県民が納得する学習の場になるよう務めたいものです。

ことしは戌年、イヌは最も古い人の家畜で遺伝子分析から古い時代の人の移動と関連していることが明らかにされています。「イヌに論語」の喩えもあります。よく躡されたイヌは柔順です。

やはり、最後は基礎・基本に行き付くようです。

企画展

やまがたのおしば・植物画

(12/18～2/6)

「やまがたのおしば・植物画」展は、「やまがたのおしば」展を発展させた企画展です。今年も数多くの方々がおしば作品や植物画を出品して下さいました。特に小、中学生の出品が多く、展示に苦勞したほどです。

小学生も中学生も、植物画はどの作品もよく観察して生き生きと描いてありました。またおしば作品には苦勞して仕上げた様子がよく現れていました。一般の作品は、どれもさすがと思わせるものばかりで、おしば標本では山形県で初めて確認された植物も数多くよせられました。

また、村山農業高校の協力で、管理を委託している池田成功洋ランコレクションの写真も展示することができました。

さらに、国立科学博物館から力添えをいただき、同時に「植物画コンクール優秀作品展」も開催することが出来ました。

主な展示内容

☆おしば作品

高校・一般の部 18人 223点

今年度山形県で初めて採集、確認された植物
シロバナエンレイソウ、コカナダモ、ミチタネ

ツケバナ、クテガワザサ、イヌクテガワザサ、
オニカナワラビ、オオホソバシケシダ、ナンゴクナライシダ (以上8種)

県内では分布が少なく、めずらしい種

エゾイチゲ、デンジソウ、など54点

小・中学校の部

31校 135人 151作品

特別出品 結城 嘉美「月山で見られるめずらしい植物 11点」

☆ボタニカルアート (植物画)

小・中学生の部

9校 180人 191作品

一般の部 54人 55点

特別出品 太田 洋愛「桜」

杉崎紀世彦「サクランボ」など5点

杉崎 文子「オオタカネバラ」など5点

☆池田成功洋ランコレクション・村山農業高等学校
洋ランコレクションの写真 30点

☆国立科学博物館主催「第9回植物画コンクール」
入賞作品 30点

出品して下さいました小・中学校の皆さん、一般の方々のご協力に感謝いたします。

企画展

新収蔵品展

(2/19～4/10)

この企画展は、本館の収集・整理活動のまともとして開催するもので、この時期の恒例となっています。各部門から興味深い貴重な資料が数多く展示されますので、この機会にぜひお問い合わせの上でご覧下さいませようご案内申し上げます。

【地学】真室川町の大型鯨化石 真室川町大沢地内で大型の鯨化石が発見されました。町当局の協力を得て平成5年11月に発掘を行ったところ、鮮新世の約400万年前の地層から、ヒゲ鯨の仲間のナガスクジラ科に属する化石が出土しました。アゴの骨の大きさから体長は15～20mに達すると推定され、国内の鯨化石では最大級のものでした。

【植物】失われゆく植物たち・湿原の植物

昔は、各地に多くの溜池や沼や堤などがあり、田のふちの水路なども「小鮒つり」ができる小川でした。今、水田などの開発と整備が進む中で、そんな水辺や湿地に生育する植物が少なくなってきました。その代表的な植物を紹介しました。

【動物】ニホンユビナガコウモリ 本個体は善宝寺裏山の笹立トンネルで捕獲されたものです。約6km離れた鶴岡市三瀬の八乙女洞は、昭和52年北限群生地として県の天然記念物に指定されま

したが、現在では、青森県が北限地となっています。

【考古】彩文土器(複製) 高島町^{おんだし}遺跡から出土した土器で、原資料は現在国保有となっています。約5000年前の縄文時代前期のもので、表面をよく磨き、黒漆で渦巻文様を描いており、特殊な用途に用いられたものと考えられます。

【歴史】「国際写真情報」国際情報社から発行された写真を中心とした月刊の手軽な国際情報誌です。「世界の大震と復興 関東大震災号姉妹編」(大正12年)や「復興完成記念 新東京の偉観」(昭和5年)が含まれています。

【民俗】一昨年の国体山形大会秋季大会の際、式典コンパニオンが着用したものを、国体山形県実行委員会より寄贈していただきました。

最上川やサクランボをデザインした振袖、伝統的な林家舞楽の装束に材を得た振袖など、じつにあでやかな和服を展示しました。

【教育】暫定師範教科書 戦後すぐの墨塗り教科書に続く教科書が暫定教科書といわれるものです。紙不足のため新聞用紙を流用し、1冊分が何回にも分けて発行されました。本資料は山形青年師範学校で実際に使用された貴重なものです。

資料紹介

動物

ガンカモ科の野鳥

ガンカモ科の鳥は、中形から大形のものまで含む水鳥の仲間です。体型は水上生活に適した紡錘形をしていて、くびが長く、足は短かく指の間に水かきがあるのが共通した特徴です。

北の国で繁殖する種類や日本で多く繁殖するカルガモなどがよく知られていますが、世界的に広く分布していて約150種が生息しています。

日本では50種ほど知られ、山形県内では今までに亜種も含めて36種確認、観察されています。

この仲間は、ガン、ハクチョウ、オンドリ、淡水ガモ、海ガモなどのようにいくつかのグループに分けることができます。

ガン類はカモ類と比較して大形の種類です。いずれも冬鳥で、群で生活、行動するのが普通で、雄、雌とその年生まれの幼鳥の家族づれが単位となり、それが集って大群もつくります。

40、50年ほど前までは日本の各地にたくさんの種類と数のガンが渡って来たため、どこでも隊列をつくって飛ぶ姿や鳴声を見たり聞いたりできましたが、今は数少ない場所ではしか観察できなくなっています。

日本では10種類ほど記録があり、山形県内ではコクガン、マガン、カリガネ、ヒシクイ、オオヒシクイ、サカツラガン、ハクガンの7種が記録されています。

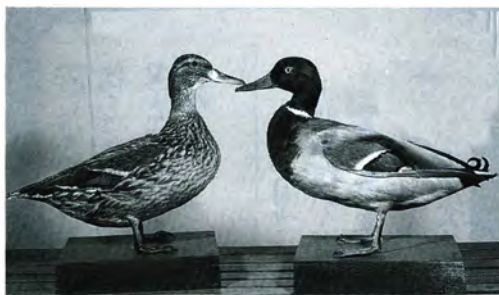
マガン

日本に渡ってくる大部分のガンはマガンで、ガンの越冬地として有名な宮城県伊豆沼には近年4万羽以上のマガンが渡ってきます。山形県内の最上川流域の各地や沼地などでも確認されていますが、越冬地としてではなく通過地、休憩地として一時見られるだけでしたが、最近は氷結しない場合、鶴岡市の大山上池のようにかなり長い間とど留していることが知られるようになっていきます。

数が多いということ、くちばしの根元周辺が白いこと、腹の部分に不規則な黒い帯があること



オナガガモ 雌・雄



マガモ 雌・雄

などから他の種類と区別することができます。ほかに県内では少数ですが、海岸でコクガン、その他でヒシクイ、オオヒシクイなどが毎年のように観察されています。

ハクチョウ類はよく知られているように一番大きな種類で、その名のとおり前身白色で雄と雌は羽色では区別できませんが、若鳥は灰色です。

山形県内に渡ってくる種類は一番多いのが、オオハクチョウで、次いでコハクチョウです。ほかに亜類で北アメリカで繁殖するアメリカコハクチョウや本来渡ってこないはずのコブハクチョウが北海道の湖で野生化して繁殖したと思われるものが県内の酒田市最上川や大石田町などで観察されています。

オンドリは山形県の県鳥に指定されているためよく知られていますが、県内でも繁殖し一年中見られ留鳥または漂鳥となっています。水面や地上で木の実や植物質のえさをあさりますが、木の枝にもよくとまり、巣は木の穴の中につくられることはあまり知られていません。

淡水ガモ類は普通内陸の湖沼、河口、広い川、内湾などにすみ、波の荒い海の上では少ない種類です。体は細長く足は体の中央についていて歩くのは上手です。地上では体を水平にして、水上では体を高く浮べ、普通は水の中にもぐらないといわれ、おもに植物質を食べています。

海ガモ類は淡水ガモ類に比べて体はまるく短く、足は体の後のほうについていて歩くのは苦手のようなです。水上では体を水に沈めていて海中に深くもぐるのも得意で、おもに水底の貝類、魚類などを食べる種が多く、なかには水草を食べる種類もいます。内湾の海上、波の荒い海上をおもな生息地としている種もいますが、淡水の湖沼、広い川などにも広く分布している種類もいます。スズカモ、ホオジロガモ、コオリガモなど多くいます。

(奥山武夫)

資料紹介

教育

往来物「白岩目安」



「白岩目安」とは白岩領八千石の農民が領主酒井忠重の庄政に苦しみ、寛永年間に起こした白岩一揆の訴状のことを言います。

近年の研究でこの一揆は寛永10年(1633)10月に忠重に対して起こした十年一揆と忠重改易の直後幕府領となってから代官小林十郎左衛門の時に起こした寛永15年6月の一揆の二度にわたることが明らかにされています。

白岩一揆の首謀者の縁者は幕府や山形藩の厳しい探索を逃れて他地方に住んだといわれ、今もその子孫と唱える人が県内各地にみられます。そこに伝えられる「白岩目安」は、たとえば決して開けてはならないという木箱に納められ「たぶさ」と円い銅鏡がともにあるというようなものであり、こうした伝来のエピソードなどから「単に子孫の手習いの手本として使われたなどということは到底考えられない」とされてきました。

しかし、最近「白岩目安」は往来物(教科書にあたるもの)として使われたものがあるという説が発表されています。その有力な根拠にあげられるのがここに紹介する資料です。

この資料は縦29cm、横19cm、58ページの手書きによる写本です。中を見るといくつかの教材を集めて一冊にした合本の形態になっています。その教材は「物嗅状」「十干十二支」「春夏秋冬」「東西南北」「江戸御城之写」「白岩目安之事」の順に並んでいます。「物嗅状」は不孝、怠学など悪業を例示して子供の訓戒とした近世に数多く普及した教材であり、他の物も初歩的な単語学習の教材であることから教科書としての体裁がよく整っておりこれが合本になっているところがその大きな根拠になっています。

一般に往来物の特徴として①普通の文書と比べ大きな字で書かれており、②従って1ページあた

りの行数が少なく(読書用で4~6行、習字用で1~3行)、③表題が〇〇状、〇〇往来とされる場合が多く特に地名の下に「状」「往来」とつけるものが多いといわれます。

この資料は1ページ5行の大きな字で書かれておりその点では特徴にあっているといえます。

「白岩目安」が広く流布していることは以前から知られており確認されているもので約30、未確認を含めると約50通にのぼるとされています。

その中には「他家より手習い本としてもらいうけた」という言い伝えのあるものもあり「門外不出」「他見無用」という伝承の伴うものとは異質なものがあつたことを物語っています。

また、流布している「白岩目安」に二系統あることから「白岩目安」を教科書とした教育・学習は「白岩目安」が流布していく途中でそれを往来物につくりかえてはじめられたのではなくまず白岩郷で行われその後各地に普及していったものと考えなければならないといわれています。

一般的に一揆の訴状を写し伝えるということは公に認められるはずがないように思われます。まして白岩一揆は寛永14年の島原の乱と相前後して起きており家光政権を震撼させた事件の一つでした。全国的な民衆の蜂起が心配されていたのです。

ところで白岩一揆に関して二ヶ所に供養碑があることもよく知られています。一つは西川町東泉寺にある二基で三十三回忌に当たる寛文10年(1670)に建立したものです。碑の上部に二筋の条刻があり一揆を企てた極悪人ということで綱目をつけることで役人が造立を許したといういわれを持つものです。もう一つは寒河江市白岩の誓願寺にあるもので高さ220cm、笠石のついた堂々としたものです。白岩領惣名主、惣百姓の字と大庄屋和田庄左エ門の名が刻まれておりこの任期などから元禄(1688~1704)頃の建立と推定されています。この建立に対して幕府代官所はなすがまま放棄していたのでしょうか。それとも暗黙の了解を与えていたのでしょうか。このことに関して寛文11年に始まり13年に完了する寛文検地とのつながりを唱える説があります。時の代官松平清兵衛が供養碑建立を受け入れることで領内の民心安定を図るという政治的な配慮をおこなったとするものです。供養碑と共にこの資料は白岩一揆が往来物のような形で表の世界でも後世に伝えることを許されていたのかどうか問題を投げかけるものです。

(渡辺 信)

平成5年度「郷土と歴史」講座を終えて

今年度は「山形・歴史と人物」シリーズ3年目を迎えました。嶺金太郎、直江兼統、最上徳内、本沢竹雲、森藤右衛門をテーマとし各講師の先生方にご講義をいただきました。相変わらず受講生の方々は熱心で、申し込み総数185人の盛況ぶりでした。もちろん、申し込みされた全員がすべての講義に出席されたわけではありませんが、常に90名近くが参加され、時には130名にも達して講堂からあふれ出るほどの状況でした。会場が手狭で学習環境としてはかならずしも良好とはいえ、受講生の方々にはご迷惑をおかけしている次第ですが物理的条件はいかんともしがたいものがあります。今後の改善策の一つとして、申し込み者数の上限を設定させていただくことも検討課題として取り上げられております。

右の写真は、10月17日(日)に村山市を会場におこなわれました演習の一コマです。村山市教育委員会との共催事業として最上徳内記念館見学、楯岡城跡、東沢公園の歴史散策をおこないました。村山市の関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。



演習「最上徳内」講演(村山市)

酒田西高、日本学生科学賞で科学技術庁長官賞を受賞

今年の第37回日本学生科学賞は、近年になく多数の応募作品が寄せられ、県内審査会にも熱がこもりました。県内での審査結果は以下のとおりですが、中央審査に出品された優秀賞受賞作品のうち、酒田西高が科学技術庁長官賞を受賞しました。また、米沢中央高が入選1等、山形五中が入選3等を受賞しました。おめでとうございます。

〈中学校の部〉

最優秀賞

- ・ 網戸をしめるとなぜあついの？網の保温性と通気性に関する一考察 山形五中科学部
- ・ 高吸水性物質を使った砂漠の緑化への挑戦 鶴岡四中科学部
- ・ ブーメランはなぜもどってくるか 考察I 山形七中科学愛好会

優秀賞

- ・ 星のガイド撮影 鶴岡二中 鈴木祐子
- ・ 寒河江川の生物の研究 大井沢中自然学習班
- ・ ミジンコに関する研究 山形三中科学部
- ・ 電池の研究 酒田二中科学部
- ・ 吉野地区の水生物 吉野中 秋保光利他4名
- ・ 廃水管による水溶液の性質の変化 酒田二中科学部

・ みみずの研究 酒田二中科学部

- ・ カモシカの研究 大井沢中自然学習班
- ・ スライムの研究 酒田二中 菅原伸次
- ・ 物のとけ方 高畠中 安倍茜・濱田真吏

〈高等学校の部〉

最優秀賞

- ・ 火山豆石の内部構造とその成因についての研究 酒田西高地学部
- ・ セイロンベンケイソウの出芽に関する研究 酒田東高生物部
- ・ 磐梯火山銅沼の湖底堆積物について 米沢中央高科学部

優秀賞

- ・ 植物の成長と光の波長に関する研究 酒田西高生物部
- ・ 花粉に関する細胞学的研究 酒田西高生物部



本館講堂での表彰式(1993. 11. 10)

◆ 文献資料寄贈者紹介

村形喜男・内山多・遠藤章・石栗正人・天野武・平口哲夫・戸川安章・大塚浩介・倉兼治・田宮良一・横山昭男・小林八三郎・阿蘇和夫・武田正・加古藤市・小形利吉・岩鼻通明・野島孝夫・長澤一雄・小笠原憲四郎・矢野勝俊・後藤利雄・山大附属博物館・齋藤茂吉記念館・上杉博物館・山寺芭蕉記念館・致道博物館・新庄市ふるさと歴史センター・山形県うきたむ風土記の丘考古資料館・真室川町歴史民俗資料館・東村山郡役所資料館・山形県立自然博物園・米沢市史編さん委員会・南陽市史編さん委員会・山形史学研究会・山形県地域開発史作成事務局・山形県警察史編さん委員会・最上地域史研究会・山寺歴史会・山形県地域史研究協議会・山形史学研究会・山形市東原一区内会・結城豊太郎先生遺徳顕彰会・鶴岡市第三学区コミュニティ協議会・新やまがたひゅ〜まんらいふフォーラム・長井植物愛好会・山形県国際交流協会・山形郷土史研究協議会・黒川能保存伝承事業振興会・山形県野鳥愛護会・日本野鳥の会山形支部・山形市医師会・山形県交通安全対策協議会・酒田市民俗芸能保存会・山形県文化財保護協会・山形県芸術文化会議・天童市美術会・山形第二小学校・山形第三小学校・山形第七小学校・南山形小学校・村木沢小学校・出羽小学校・成生小学校・西川町西山小学校・小田島小学校・山大附属小学校・上山市宮生小学校・天童第二中学校・村山市葉山中学校・山形中央高校・新庄南高校・酒田西高校・寒河江工業高校・米沢商業高校・高島高校・山形盲学校・山形聾学校・ゆきわり養護学校・上山高等養護学校・山形女子短期大学・山形大学・山形市小学校長会・山形県連合小学校長会・山形市小学校教頭会・山形県小学校教育研究会理科部会・最上地区教育研究会へき地小規模部会・山形市中学校長会・山形県高等学校長会・山形県高等学校教育研究会・山形県中学校体育連盟・山形県高等学校体育連盟・山形県高校定通教育研究協議会・山形県言語治療教育研究会・山形県情緒障害教育研究会・山形県PTA連合会・山形県退職校長会最上支部・九里学園教育研究所・山形県身障者スポーツ協会・上山小学校百周年記念事業協賛会・大蔵小北山小中中学卒業実行委員会・山形県埋蔵文化財センター・山形県生涯学習セ

ンター・山形県体育協会・寒河江市教育委員会・新庄市教育委員会・金山町教育委員会・大石田町教育委員会・酒田市教育委員会・立川町教育委員会・山形県立図書館・朝日少年自然の家・山形地方气象台・山形新聞・山形放送・山形教育用品株式会社・北村山教育事務所・西置賜教育事務所・庄内教育事務所・山形県教育センター・山形県職員研修所・山形県林業試験場・山形県水産試験場・山形県総務部・山形県教育委員会・山形県議会事務局・山形県工業技術センター・やまがた社会保険センター・山形県消費生活センター・山形県教職員互助会・山形市・中山町・大江町・高島町・村山市・尾花沢市
他、県外多数の博物館・教育委員会・大学・県各行政機関
(平成5年4月～6年1月)

◆ 資料寄贈者紹介

〈動物〉		
太田 威(鶴岡市)	ウミガラス	1点
〈植物〉		
石山美恵子(山形市)	カミツレモドキほか	24点
加藤 一(上山市)	ツルドクダミほか	3点
小形 利吉(山形市)	ナガハグサほか	27点
平吹 喜六(山形市)	サワギクほか	11点
大谷 正実(山形市)	コゴメバオトギリほか	5点
大類 貞夫(新庄市)	ミズドクサほか	12点
鳥山 啓介(山形市)	チャンチンほか	5点
鈴木 暁(上山市)	ヒメチドメほか	12点
大高 滋(尾花沢市)	コカナダモほか	9点
佐藤 恒子(山形市)	ミヤマシダほか	22点
斎藤 清(上山市)	ヒメヒゴタイほか	7点
斎藤 正昭(新庄市)	オオマルバノホロンほか	4点
土門 尚三(遊佐町)	ハイドジョウツナギほか	9点
佐藤 滋子(長井市)	イケノヤナギほか	31点
加藤 信英(藤島町)	ミズアオイほか	17点
佐川 昇(山形市)	オニカナワラビほか	7点
水野 重紀(鶴岡市)	ウマノスズクサほか	3点
山田 寛爾(山形市)	チョウジギクほか	15点
〈歴史〉		
小和田直子(河北町)	山形新聞	1点
栗田 幸助(山形市)	歴史写真(雑誌)	28点
〈民俗〉		
石川 清治(河北町)	ワラ人形(犬)	1点
(教育部門の寄贈者は次号に掲載します。)		

山形県立博物館ニュース 第118号	ISSN 0918-8045	平成6年2月28日発行
山形県立博物館	〒990 山形市霞城町1番8号	TEL 0236(45)1111 FAX 0236(45)1112
山形県立博物館教育資料館	〒990 山形市緑町二丁目2番8号	TEL 0236(42)4397